

第2節 学会発表等

学会名	開催日	開催地	テーマ	発表者
第43回北陸公衆衛生学会	H27. 11. 19	金沢市	南加賀管内における自殺対策の 課題と取り組み	新田 悦子

南加賀管内における自殺対策の課題と取り組み

○谷中美雪 嶋田拓美 河畑沙織 道下妙子 新田悦子 沼田直子
(石川県南加賀保健福祉センター)

はじめに

石川県における平成 25 年の自殺者は 204 名であり、当南加賀管内では 47 名であった。経年変化では、徐々に減少傾向にあるが、その背景には把握の難しい多くの自殺未遂者の存在があると考えられ、さらなる対策が求められている。

自殺には、健康問題、経済・生活問題、対人問題など多岐な背景要因があり、関係機関による包括的な支援の重要性は認識されているところであるが、自殺対策に結び付くには有機的にネットワークが機能することが課題である。

今回、関係機関が主体性を持って、自殺対策に取り組めるように連絡会の持ち方及び具体的な対応に繋がる課題の整理を行ったので報告する。

取り組み状況

平成 19 年度から、関係機関の取り組みの共有化、顔の見える関係づくり、相談機関の対応スキルの強化を目的に、年 1,2 回の連絡会及び研修会を実施してきた。取り組み当初は市町、警察、民生委員の参加であったが、医療機関、教育関係、消防、労働関係、関係団体に拡大してきた。

連絡会の中で、参加機関から課題が共有されにくい、具体的な対策が見えてこないなどの声があり、平成 24 年度から連絡会の持ち方に工夫を重ねてきた。KJ 法の手法を取り入れ、参加者みんなが地域

の課題を整理することで「課題の見える化」を図り、共通認識を深めることに努めている。また、有機的なネットワークを推進するために、研修会からヒントを得て、東京都足立区で実施されている「つなぐシート」の導入も行っている。関係機関からは連絡会をとおして議論が深まり、課題に向けて取り組む意欲がもたらされたという反応があった。

まとめ

それぞれの関係機関が、既存の限られたマンパワーの中で自殺対策に取り組むにも、自殺問題は背景要因が多彩で、かつ多くの機関連携が必要ということがあり、確実な対策が取り組みにくいジレンマがあった。

今回、連絡会及び研修会の方法を工夫し、「課題の見える化」によって、関係機関が自殺対策に取り組める筋道が見えること、また「つなぐシート」を導入することで協力し合える体制を目指した。参加機関がエンパワーされた印象があるが、取り組みを始めたところであり、今後さらに「対策の見える化」を図ることで、積み上がる自殺対策につなげていきたい。